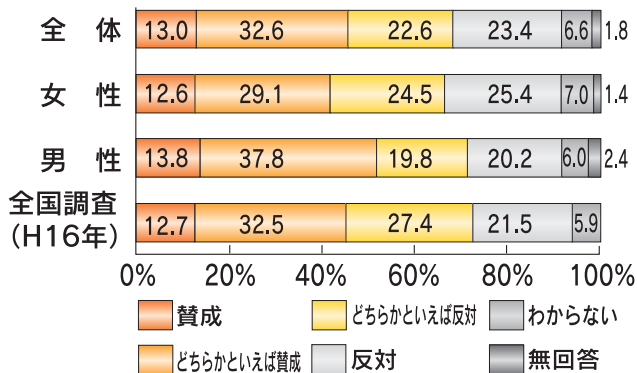


ひとひと 女と男 パートナーシップ

問い合わせ先 企画課男女共同参画推進係 ☎ 72-2111 内線 222

性別役割分担意識

「夫は仕事、妻は家庭」は賛否両論



「小郡市男女共同参画社会に向けての市民意識調査」(平成17年)より

市民意識調査(平成17年)では、「夫は仕事、妻は家庭」という考え方について賛否を聞いたところ、「賛成派」は45.5%、「反対派」は46.0%と賛否の比率がほぼ同率となっています。この傾向は全国調査(平成16年)と比較しても同様の傾向となっています。

性別役割分担意識

「夫は仕事、妻は家庭」に賛成？反対？

本市は、市民と協働して、将来に向かって男女の人権が尊重され、自らの意思で多様な生き方が選択でき、自分らしく生きる喜びを感じることができる男女共同参画社会の実現を目指しています。

また、福岡県による同様の調査(平成21年、平成16年)によると、平成21年の賛成派56.3%、反対派42.8%、平成16年の賛成派50.2%、反対派49.1%となっており、この5年間で賛成派が6.1ポイント増加しています。こうした賛成派の増加は、昨今の経済情勢により非正規労働者割合の増加などの厳しい雇用環境や、現に就労していても仕事と家庭の両立が難しいことなどから、「仕事に就くより家庭にとまったら」などの心理的状況が影響したものと推測されています。

配偶者等からの身体的暴力の経験

女性の6人に1人、男性の11人に1人

また、市民意識調査(平成17年)によると、女性の6人に1人(約16%)、男性の11人に1人(約9%)が、これまでに夫もしくはパートナーから身体に対する暴力を受けた経験があると答えています。

配偶者等からの暴力(以下、「DV」という)の背景には、「夫は仕事、妻は家庭」「妻が夫に従うのは当然」といった性別による固定的な意識や経済力の格差などの社会的状況が根底にあるといわれています。

DVはこれまで「家庭内の問題」、「夫婦間の問題」として見過ごされてきました。

しかし、DVは人間の尊厳を傷つけるものであり、「犯罪」につながる可能性もあります。

男女共同参画とは、男女が互いの人権を尊重しながら、対等な関係で支え合い認め合うことであることから、DVを未然に防ぐとともに、DV被害者を支援する取り組みの充実が必要です。



日本女性会議 2010きょうと

日本女性会議開催のご案内です。

▼日時 10月1日(金)～3日(日)

▼場所 国立京都国際会館

▼申込方法 ①参加申込書に記載している申込先に郵送またはファクス。(参加申込書は小郡市企画課で配布しています。)

②実行委員会ホームページからの申込みもできます。(http://joseikaigi2010.kyoto.jp)

▼申込締切 8月31日(火)

▼問い合わせ先

日本女性会議2010きょうと実行委員会事務局

☎ 075・2222・3091

ファクス075・2222・3223

※参加にかかる費用の一部を補助します。詳しくは市企画課(内線222)にお尋ねください。